

わがまち防災マップ作成事業【広瀬地区】

～安全安心なまちをめざして 寺町町内会まち歩き～

【参加団体】広瀬地区自主防災会、寺町町内会

地区の状況	<ul style="list-style-type: none">■中高層の住宅立地が進み、都心近く生活利便性の高い住宅地。■広島別院等大小の寺が建ち並ぶ寺町界隈がある。■中学校区が中区と西区にまたがっている。
取組内容	<p>わがまち防災マップ作成事業とは</p> <p>異常気象により日本各地で災害が頻発している中、いざというときに自らの命を守るためには、日頃から身近にどのような危険があるかを知っておくことが重要となる。</p> <p>各地域の立地や生活環境などの特性や実情と、その地域で想定される災害種別や被害などの災害危険性（ハザード）を踏まえて、地域独自の防災マップを作成し、地域にお住いの皆さんが防災情報を共有し、地域としての防災力向上を目指すのが「わがまち防災マップ作成事業」である。</p> <p>本事業では、地域の自主防災会や町内会が主体となって、勉強会やまち歩きを行い、災害危険性の高い場所を特定して、避難場所や安全な避難経路などの災害時に役立つ情報を記載したマップを作成していく。</p> <p>事前説明会</p> <p>今回作成に取り組んだ寺町町内会は【高潮・津波】の災害危険性があるため、防災士から【高潮・津波】の危険性を考慮したまち歩きについて説明を受けた。チェックポイントとして、浸水歴のある箇所、海拔標高表示の標識、側溝や水路の状態などが挙げられた。</p> <p>また、参加者は寺町のハザードマップと照らし合わせながら、改めて住み慣れた町を歩くに当たり、普段見落としがちな箇所などを確認した。</p> <p>いざ、まち歩き</p> <p>令和4年7月28日に実施したまち歩きには、8名が参加。参加者それぞれが白地図と鉛筆を手にして、壊れそうなブロック塀や冠水しやすい場所など、見つけた危険箇所にマーキングをしていく。また、寺町には、実際に水を汲み上げることができる井戸用手押しポンプが多く存在していることがわかり、町の文化的特色の再発見にもつながった。</p> <p>完成に向けて</p> <p>今後は、まち歩きで確認した寺町の危険箇所等を集約し、修正を重ねて、地域の実情にあったよりわかりやすく、実用的なマップにしていく。今秋頃の完成を目指す。</p>
活動による効果	<ul style="list-style-type: none">●地域が主体となって、町内の災害危険性について具体的に考えることで地域防災力の向上につながった。●活動の成果物として町内配付用のマップが完成するので、活動内容を広く共有できる。●広瀬地区の他町内会においても同様のマップ作成に取り組みたいという声が上がっており、寺町町内会をモデルにして、活動の拡大が期待される。●参加者からは、「改めてゆっくり歩いてみると、住み慣れた場所でも思わぬ発見があり楽しめた」という意見があった。
活用した支援制度 行政の支援	<ul style="list-style-type: none">・区役所がアドバイザーとして防災士を派遣し、防災に関する知識や危険箇所の特定について助言・区役所がマップ印刷代を全額負担



▲事前説明会の様子



▲まち歩きで想定される災害や危険箇所を確認



▲町内の文化的特色を再発見